～被害者と共に考え、共に歩む～ vol.42

支援センターだより

ご挨拶

専務理事兼事務局長　髙橋 陽悦

最近テレビのニュース報道や新聞等を見ますと、県内外において、殺人事件等の凶悪事件や交通事故のニュースが連日報道されており、女性や子ども、高齢者等の社会的弱者が犯罪の被害者となるケースが多い状況が窺われます。

犯罪被害者の多くは、予期せぬ事件・事故のショックで、精神的な動揺や、経済的な損失も大きく、こうした犯罪被害者の置かれた立場や心情を理解した上で、適切な対応措置を初期段階から取らないと、被害者が精神的に追い詰められ、思わぬ方向へ踏み出すことが懸念されます。

当支援センターは、このように、ある日突然、犯罪や交通事故に巻き込まれて、被害者となり、または、大切な家族を失い、途方にくれるご遺族の方々の精神的な負担等を少しでも軽減し、一日も早く元の平穏な生活を取り戻すことができるよう支援しております。

当支援センターの主な支援活動は、犯罪被害者等からの電話相談や面接相談をはじめ、直接的支援活動として、警察署・検察庁への付添い、裁判所での公判付添い、精神的に悩んでおられる被害者等が希望する場合は、臨床心理士によるカウンセリングや弁護士への法律相談に伴う付添い等、被害者に寄り添う活動を行っております。こうした支援活動は、多くの県民の皆様から寄せられました寄付金、賛助金、募金等の浄財により支えられています。

ところで、犯罪被害者等への対応として、国においては、平成17年に「犯罪被害者等基本法」が制定され、また、本県におきましては、「静岡県犯罪被害者等支援条例」が平成27年4月から施行されたことに伴い、県をはじめとする行政機関や関係各位の皆様のご協力により、支援施策が着実に推進されつつあります。そこでお願いしたいのですが、「静岡県犯罪被害者等支援条例」を補完する意味で、是非とも各市・町ごとに、被害者等に対する見舞金制度や経済的支援策を盛込んだ「犯罪被害者等支援条例」を制定して、地域全体で被害者等を支える支援体制を構築することが強く望まれます。その上で、当支援センターとの連携により、きめ細かな支援を実施することは、犯罪被害者等にとって、新たな希望と勇気を見出す一歩となることを確信しております。

当支援センターは、犯罪被害者等の拠り所として、支援体制の強化と柔軟かつきめ細かな支援を目指して、更なる充実強化を図って参りたいと考えておりますので、県民の皆様のご支援とご協力を賜わりますようお願い申し上げます。併せて、支援センターの運営基盤を確立する上で、皆様からの寄付、賛助金、募金等の財政的援助を賜わりたくお願い申し上げ、挨拶とします。

～目　次～

- ご挨拶:専務理事兼事務局長　髙橋陽悦
- 「犯罪被害者等支援講演会inしずおか2016」講演
  子どもたちを被害者にも加害者にもしないために
  ～"命の授業"からみえてくるもの～　市原千代子 様
- 「犯罪被害者週間」活動報告、地下広告掲出報告
- 事例検討会議開催報告
- 寄付型自動販売機及びホンデリング報告
- 賛助会費納入者・寄付者ご紹介、寄付のお願い

静岡県公安委員会指定　犯罪被害者等早期援助団体
認定NPO法人(特定非営利活動法人)
静岡犯罪被害者支援センター
電話相談
054-651-1011
受付時間：10時00分～16時00分
(土・日・祝日・年末年始を除く)

「犯罪被害者等支援講演会inしずおか2016」

子どもたちを被害者にも加害者にもしないために
～“命の授業”からみえてくるもの～

講師：市原千代子氏
（NPO法人おかやま犯罪被害者サポート・ファミリーズ理事）

【はじめに】

こんにちは。市原と申します。私は今朝、岡山から参りました。

現在、私は様々な所で講演をさせていただいておりますが、多くは子ども達向けにお話をさせていただいております。

私は最初にいくつかのお断りをしてからお話をさせていただいています。と言いますのは、私は先程ご紹介していただきました次男が集団暴行に遭って亡くなるまでは、子どもたちには皆さんのお母さんと同じ生活をしておりましたと言いますが、社会の中でごくごく普通に主婦として、母として、皆様と同じ生活していただけの者です。だから決して話が上手ではないと思っています。

でも、一生懸命話をしますので聴いていただけたらと思いますが、私は命の授業や講演活動は、もう10年余りやってきました。でも歳を取り、頭の中にある記憶に頼って話そうと思うと忘れるということが多くなり、現在は原稿を用意し、それで話す内容を忘れていないか確認しながらお話をさせていただきますので、時々、原稿確認のために下を向くということを許していただけたらと思います。

それともう一つ、実は私は昨年11月13日の金曜日に交通事故に遭いました。その日は大阪の高校で講演をし、夕方地元駅から自宅まで歩いて帰っていて、対向を避けた車が後ろから衝突をしてきて、左足の太ももの骨を折り、フロントガラスに後頭部をぶつけて、顔から前に落ちたようで、結果として前歯を5本失い、インプラントの手術を受けて2本のインプラントを利用して他の歯を入れるということをしていただきました。まだ、完全ではないので、少ししゃべり難いことがあるということも許していただけたらと思います。自分の安心のためにお断りしてから話をさせていただいています。

今日はまず私が子ども達に話をしている『命の授業』をご紹介し、その後に、『命の授業』に出向いている中で私が感じることなどをお伝えできたらと思います。

ということで、子ども達に話す『命の授業』をまず聞いていくください。

私がお話をさせていただくときに、必ず持ってくる物があります。それをまず見ていただこうと思います。これが、もう17年半前になりますけれども、平成11年に18歳で亡くなりました次男圭司の写真です。なぜ、私がこの写真を持ってきているかというと、私は犯罪被害者と言われます。でも、本当の犯罪被害に遭ったのは、この次男の圭司だけだと思います。被害に遭った、辛さ、悲しさ、悔しさ、怒り、その他色々なものは、この圭司しか語れないと思います。でも、圭司は二度と自分の口で語ることはできません。私が語ってやれるのは、遺された遺族としての母親の想いしかないと思います。それでも私は、この写真から圭司がきっと皆様に語りかけているものが必ずあると思っています。それを感じながら聞いていただきたいと思うとともに、先程言いましたけれども、犯罪被害者とよく言われます。でも、犯罪被害者というのは、圭司のように犯罪被害に遭い、命を奪われてしまった者であるとか、ケガや障害を負わされたり、心や体の深いところに傷を負わされて、そういうものを背負いながら生きている、被害に遭ってしまった当事者と言われる人がいると思います。そうして、被害に遭ってしまった当事者と言われる人達の周りには、圭司のように命を奪われてしまった人達の周りには、私のような遺族と言われる人達がいます。そして、ケガや障害を負わされたり、心や体の深いところに傷を負わされてしまった人達の周りには、その人達を介護や看護をしたり、見守ったりする人がいると思います。だから、「犯罪被害者」と一括りに言うんですけれども、「被害者」というのは被害に遭ってしまった当事者と、それからその回りにいる人達もいる、そう違いを知っていただきたいと思っております。

写真を持ったままですと話しにくいので、置かせていただこうと思っておりますけれども、この写真は16歳。高校二年生のときの写真です。置かせていただきます。

【事件に遭うまで】

まず、事件のことからお話をしようと思います。

私共の事件は、1999年、平成11年3月17日の夜9時半ごろ、当時、18歳だった同級生と、19歳と20歳だった先輩2人の、併せて3人の幼馴染の男達に、電話で「出て来い」と呼び出されて、出て行った圭司は、彼らから「電話に出なかった」であるとか、「日頃の態度が横柄だ、生意気だ」というような因縁をつけられて、殴る蹴る、川に蹴り込まれるなどの暴行を受け、翌18日の1時過ぎに亡くなったという事件です。この事件に至るまで、圭司がどのように大きくなったのかをお話しようと思います。

私は、1975年、昭和50年12月に結婚しました。すぐに赤ちゃんを授かっていることが分かり、翌昭和51年7月27日に長男を出産しました。長男を出産するまでは、仕事に行っていたのですけれども、出産を機に仕事を辞め、家庭に入り、主婦として、母としての生活を始めました。そして、その翌年の昭和52年夏に、今度は次の子を流産で失いました。そしてその翌年の昭和53年6月には、9ヶ月まで私のお腹の中で大きくした子を死産で失いました。そしてその後の昭和55年11月2日に元気に生まれてきてくれたのが、先程見ていただいた次男の圭司でした。その後、私は昭和58年5月の最後の日に、一番下の娘を出産して、それからは本当に平凡な主婦として、母としての生活を送りました。

私が、現在も住んでいます岡山県備前市三石というのは兵庫県との県境の山間にある小さな町です。赤穂浪士で有名な赤穂にも車で20分ほどあったら行けるところで、保育園に入ると中学校を卒業するまで、他の学区から子ども達が混ざることのない単一学区です。こういうところで大きくなりますと、近所に子どもがいると、先輩後輩関係なくお友だちという状況で大きくなりますし、大人達の関係も良好ですから、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、近所の人達、そういう多くの大人達にも見守られながら、子ども達3人それぞれ大きくなりました。

中学校を卒業して、初めて子ども達が経験することがいくつかありました。その中で、圭司が経験したこと、まず、第一に経験したのは、多くの学区から来ている友達の中に入りました。二つ目に経験したことは、小学校3年生からスポーツ少年団で始めたソフトテニスをするために、中学校でも高校でもテニス部に入りました。三つ目に経験したのは、学校に許可をもらい家の近くのガソリンスタンドにお願いをして、土日であるとか、春休み、夏休みにアルバイトをすることを始めました。

そして四つ目に経験したのは、子ども達の間で、大人の目を盗み隠めて行われていた暴力の問題でした。当時、圭司が通っていた高校には、複数のそういった問題があり、それは他のお母さんからも聞いていました。でも、私は圭司の身の上にそういうことが起こっているとは思っていませんでした。私の目から見て、それなりに楽しく高校生活を送っているように思えました。そんな状況で2年生に進級をするとき、ある友人が2年生に進級することができず、高校は中退をして、岡山市内で美容師を目指してがんばるということに決めたようです。そういう友達を間近でみながら、圭司の気持ちの中に芽生えているものがあることを私は何となく感じていました。

そういう思いを抱えながら、圭司は2年生に進級しました。でも、2年生になってすぐ、今度は教室の中で、些細なことから同級生の男の子に思いっきり殴られてしまい、左目の奥の骨を折ってしまう眼底骨折という怪我を負わされ入院しました。実際には視野が少し欠け、狭くなっていたんですけれども、生活に支障がない範囲だと分かり、私達は様子を見ながら過ごすことを選び、症状が落ち着いた10日ほどして、圭司は病院を退院してきました。でも、圭司は病院を退院してきてから、高校に行こうとしなくなりました。当時圭司は、自分が何のために勉強するのかであるとか、どんな仕事に就きたいのか悩んでいるように思いました。先生から電話をもらい、相談し先生から「学校は休学という形を取っておけば、圭司君がそういったものを見つけたときに、いつでも戻ってくることができますよ」と教えていただき、学校は休学という形を取らせてもらいました。休学をした後、圭司は色々なことを試し始め、アルバイトに行ったり、一人暮らしをしたり、仕事に行った時期もありました。

でも、全てうまくいきませんでした。なかなかやりたい仕事は見つからなかったし、何のために勉強するのかも見つかりませんでした。そういう状況で、平成10年の年末には、運転免許を取り、工場に働きに行った時期がありました。でも、扁桃腺を腫らして、高い熱を出し、休むことが重なり、年が明ける頃には仕事を辞め、2月の始めに扁桃腺を取る手術をしました。病院から退院してきて体が落ち着いてきてから、圭司は東京に出かけ長男に会ってきました。私どもの長男は岡

山市内の商業科の情報処理のコースに行き多くの資格を取り、東京で専門学校卒業の資格でシステムエンジニアとして働いていました。長男に会って来た圭司は、「お母さん、僕も何か資格が取りたい」と言うようになりました。当時圭司は、「僕は人と関わることが大好きだから、人と関わる仕事がしたい。人と関わる仕事ってどんな仕事があるんだろう。それに必要な資格ってどんな資格があるんだろう」とよく言っていました。同時に「兄貴っていいよな。楽しい高校生活を送っていたよな。僕ももう一回、ああいう高校生活を送りたいな」というようなことも言うようになっていました。そういうのを見てきたときに、休学をしていた高校から「この後どうされますか」と連絡をもらい、私と圭司と出掛けて行き、先生と話し合いをしました。そして99年の4月から岡山市内に中高一貫で、不登校の子も受け入れるという市立の高校がオープンすることが分かり、先生と相談をして、籍をおいてもらっていた高校は中退をして、4月からその新しく始まる高校の8月の3期の募集に向けてがんばるということに決めました。

やっと圭司の中で、夢や希望が少し見えてきていました。でも、その一方で圭司の気持ちの中に何か芽生えているものがあると私は感じていました。それは二年近くに亘りきちんと学校に行けていなかったり、生活ができていなかったことからくる周りの人への負い目や引け目でした。それは私達家族に対してもありました。圭司の好きな人達に対してもありました。そして、同級生や先輩達、後輩達とお付き合いはあったんですけれども、当時に限りちゃんと学校に行けていたり、就職や進学を決めている子達に対しては少し関わりづらくなっていました。だから、ちゃんと学校に行ってくれなかったり、途中で高校を辞めて働いている子ども達と顔を合わせることが多くなっていました。そういう子ども達の中に、A、B、Cたちがいました。Aは16歳。高校1年のときに学校を中退して、Aのお父さんが地元で建設会社をしているので、そこで働いていました。Bは圭司と同じ高校に進学をしていました。でもBは学校の中で、一人暴力の被害に遭っていたようで、親御さんや先生がちゃんと対応しようとしていたようでしたけれども、子ども達の暴力というのは、大人の目を霞めるようにして、校舎の影であるとか人目のつかないところで行われます。だから、Bはひどい暴力の被害に遭い続けていて、結局学校に行けなくなり、高校を中退して、Aのお父さんの会社で働かせてもらっていました。Cは、事件当時は高校の卒業式を終えていました。でもCはAの親分肌で、下の子の面倒をみたりする部分があったらしく、そういうAみたいになりたくて、正式には4月からAのお父さんの会社で働かせてもらうと決めていて、卒業式を終えた時点で働くと言っていたようです。だから、A、B、Cたちはよく一緒にいることが多くなっていました。

【事件当日】

そういう状況で、3月17日のことをお話ししようと思います。3月17日は、一番下の娘の中学校の卒業式の日でした。当初、私は仕事に行っていましたので、仕事を休み、朝、卒業式に行く用意をしていました。少し遅めに圭司が起きてきて、「お母さん、今日はどうしたの」と聞きました。「卒業式よ」と答えると、「これから僕は遊びに行ってくるからよろしく」と言って出掛けていきました。その後私は卒業式に行き、卒業式が終わり、仕事に行っているとなかなかゆっくりできない家事などしながら家にいました。夕方、少し早めに家に圭司が帰ってきました。先程言いましたように、当時圭司は、周りの人に対して負い目、引け目をたくさん感じていました。でも、私の近くに一緒にいることが多く、たくさん話もしてくれましたし、買い物にも一緒に行ってくれていました。でも、主人や娘には少し関わりづらくなっていて、食事はちょっとずらして摂ることが多くなっていました。その日も帰ってきて「お腹が空いた」と言ったので、お昼に作っておいたものや夕食の準備中のものなどを急いで作って食べさせました。食べた後圭司は、「少し腰も痛いし、眠いから寝るわ」と言って寝に行きました。1ヶ月前に扁桃腺の手術をしたこともあって、体調が思わしくないことを私は知っていました。だから寝かせといてやりたいと思いました。

夜になりCから電話がかかってきました。「圭司いる?」という電話でした。寝かせといてやりたかったので、「寝ているから」と断りました。何度か電話がかかってきて、その度に「寝ているから」と断りました。電話もかかってこなくなって、私は9時過ぎにお風呂に入りました。私がお風呂に入っていた9時半頃に、Cから電話がかかってきて、それを娘が取って、子機を圭司に渡しました。その電話で、圭司は出て来いと呼び出され、出て行った圭司は、最初にお話をしたように『電話に出なかった』であるとか『日頃の態度が横柄だ、生意気だ』というような因縁をつけられ、殴る、蹴る、川に蹴り込まれるという暴行を受けました。

私は、裁判の過程などで、暴行の実態の全部を聞こうとしましたけれども、余りにも辛くて全てを聞くことができませんでした。だから、皆さんにお話できるの

は、『殴る、蹴る、川に蹴り込まれる』ということぐらいです。僅か30分で圭司は動かなくなりました。動かなくなった圭司をどうしようと彼らは相談をして、隣町の病院へ運び込み、10時半過ぎに再度Cから電話がかかってきました。「おばちゃん、先輩が圭司を川に放り込んだんだ。目を開けんのじゃけど、ちょっと来て」というような内容でした。その日、主人は家にいました。でも頭が痛いと先に休んでいました。私は、圭司がそんな酷い怪我を負わされているとは思ってもいませんでした。だから娘に「圭司が病院にいるようだから、迎えに行ってくるから」と伝え、川に放り込まれたと聞いていたので、洗濯物の中から圭司の着替えを掴んで、隣町の病院に向かいました。その病院の集中治療室で見た圭司の顔は、酷いものでした。顔は傷だらけでした。おでこには三本の線が入っていました。後で分かったのですけれども、動かなくなり、地面の上で大の字になってしまった圭司の顔に、主犯が靴のまま乗っていたようで、たぶんその痕だったんだと思います。耳はパンパンに腫れていました。上から見ると肌の色でしたけれども、耳の後ろへは血が入っていて真っ黒でした。どうしたらこんな酷いことになるんだろうというぐらいの酷い形の耳になっていました。結局、そこの病院では処置ができないということがわかり、二年ほど前に眼底骨折で運び込まれた岡山市内の病院へ救急車で運ばれました。その病院に着いた後、「市原さん、圭司君は重篤な状態です。この後、圭司君には集中治療室ICUに入ってもらって様子と経過を診させてもらおうと思います」と言われました。私はその時、もしかすると圭司は、子ども達によってこういう状態に追いやられたのかもしれない。だから、傷だらけの圭司の心や体を元に戻してくれるのは子ども達しかいないのではないかと思い、子ども達に来てほしいと思いました。でも深夜でしたから、電話することはできませんでした。長男にだけ連絡を入れ、急いで帰ってきてほしいと頼みました。その後私達は、ICUに入っている人の家族が待機する部屋で一晩夜を明かしました。ほんとに長い夜でした。涙が止め処なくあふれてきて、離れている間に圭司に何かあったらどうしようという思い、と共に、早く朝になって、元気な圭司の顔や姿が見たいという想いが行ったり来たりしました。じっとしていることができなくて、私は意味もなくICUのある6階から1階までの階段を何度も何度も、何度も何度も上がったり下りたり、上がったり下りたりしながら、でもこうしている間に圭司に何かあったらどうしようと、また待機する部屋に戻ったりすることを繰り返しながら朝を迎えました。夜が明け、当直の先生が来られ、「朝方、圭司君の心臓が一時弱くなりました。今強い薬で様子をみています。強い薬を使い続けると、心臓に負担がかかってよくありません」と言われました。でも、亡くなるとは思っていませんでした。だから、「今、長男に帰ってきてほしいと連絡を入れています。長男が帰るまで何とかしてください」とお願いをしました。その後夜が完全に明け、電話をしていい時間になってから、当時圭司が親友だといっていたU君に電話を入れました。本当はたくさんの友人に来てほしいと思いました。でも、ICUには限られた時間に、限られた人しか入れないということが分かっていました。だから、私はU君にだけ連絡を入れ、事情を説明し、すぐに来てほしいと頼みました。U君は「わかりました。面会できる時間に必ず行きます」と約束をしてくれました。それからも私達は待ちました。私は、長男が帰ってきてくれたら大丈夫、U君が来てくれたら大丈夫と思っていました。でも、私達家族のために11時半にICUの扉が開けられ、もう自由に出入りしてくれていいですよと言われました。それが何を意味するのかその時は分かりませんでした。急いで圭司のところへ行き、「お兄ちゃんが帰ってくるからね。U君が来てくれるからね。」と声をかけました。傷だらけの圭司の顔を見続けることができなく、私は足を擦りながら圭司に付き添いました。でも、いたたまれなくなって、1時過ぎに病院の玄関へ降りました。1時半に長男が病院に着いて、二人で急いでICUのある6階まで階段を駆け上がりました。その直後の1時39分に圭司は息を引き取りました。その後、病院の先生から「検視のため、警察の方が来られるから、警察の方が来られるまで外で待っていてほしい」と言われました。身内の者に圭司が亡くなったことを連絡しなくてはならないこともあり、仕方なく私達は外に出ました。そうしたところ、来てほしいと頼んでいたU君がここに来ていてくれていることが分かりました。U君は家族でないので中に入れなくて、外で待っていてくれました。急いで私はU君を連れて圭司のところへ行きました。そして二人で、そっと圭司の体に触れました。まだぬくもりが残っていました。「おかしいね、こんなに温かいのに、息をしていない。どうしてなんだろう。こんなに温かいのに、しゃべってくれない。目を開けてくれない。どうしてなんだろう」と言いながら、U君に圭司に会ってもらいました。U君は目から大粒の涙をボロボロ、ボロボロこぼしながら「圭司、圭司」と言い、圭司に最後の別れをしてくれました。その後、警察の方が来られて、「市原さん、これは事件です。事件を解決するために

圭司君の体を司法解剖させてください」と言われました。傷だらけの圭司の体にこれ以上メスを入れてほしいと思いませんでした。でも事件を解決するためと言われ、私達は仕方なくそれを承知しました。翌日、圭司は大学病院で司法解剖を受けました。そうして、夕方、棺に納められ、ドライアイスを入れられ、家に帰ってきました。亡くなった直後の圭司の体にはぬくもりがありました。でも、司法解剖を受け、棺に納められ、ドライアイスを入れられ、家に帰ってきた圭司の体は氷のように冷たくなっていました。

【手のぬくもり…生きている証】

私はこの話をした後、「必ず一緒にしてもらうことがあるので、一緒にしてもらおうと思います」と子ども達に伝えて、一緒に手を合わせ握ったり、握り返したりしてもらいます。死んでしまうということは、温かかった手が、氷のように冷たく動かなくなってしまうことです。そして、氷のように冷たく動かなくても、最終的にはそこにあった手がそこから無くなってしまうことです。私はどんなに想像力を駆使しても、亡くなったときの棺の圭司の顔から今の顔を想像することはできません。生きていれば圭司は、先日11月2日に36歳の誕生日を迎えていたんです。でも、どんなにがんばっても30歳を過ぎた圭司の顔を想像することはできません。それが死んでしまうことだと思います。

その手のことで一つしてほしいことがあります。私は最初に話をしたように、流産、死産の後、圭司が無事に生まれてきてくれているのを確認したとき、元気な産声を聞き、そしてこんなちっちゃい手が動いていることを確認しました。だからそれを見たとき、本当に嬉しく思いました。一生懸命大切に育てました。どこか出掛けるときには、勝手にどこかへ行ってしまわないようにしっかり手を繋いで出掛けました。長男も下の娘もそういう風に育てました。子ども達に言います。それは皆さんも同じようにあるのではないでしょうか。これから皆さんも大人になっていきます。大人になるといつか誰か好きな人に出会うと思います。その好きになった人とちょっと恥ずかしいなと思いながら手を繋ぎ、いつかその人と結婚をして、そしてその先の新しい小さな命を取りつなぐと私は思います。でも、その新しい命の手に繋がれていく手のことで、もうひとつ知っていてほしいことがあります。新しい命の手につながっていく皆さんのその手は、圭司の命を奪ったような暴力を振るうこともできる手だということです。そして、私も家に帰ると地元で車のハンドルを握り、車を運転します。皆さんもこれから大人になると運転免許を取り、その手で車のハンドルを握ることがあるのではないかと思います。ハンドルを握ったその手で、交通事故を起こし、誰かの命を奪ってしまうと、それは交通事故の加害者になってしまうということです。それも知っておいてほしいと思います。

【子ども達の『いじめ』】

子ども達にはこの後、「私が暴力の問題と共に、暴力の問題にもつながるもう一つとても気になっていることをお話しようと思います」と伝えて『いじめ』の問題を話します。自ら命を絶ってしまう子ども達がいるということで、これは言葉もありません。本当に心が痛みます。でもその一方である日突然、加害者として名指しされてしまう子ども達がいるということです。加害者として名指しをされてしまった子ども達の顔や名前がインターネット上に流され、そこから色んなことを言われ、学校へ行けなくなったり、転校を余儀なくされているということもあるということ。

私はそういうことを聞いて、心が痛み、考えました。そして、私は、私達大人が子ども達にきちんと伝えていないことがあるのではないかと思いました。だから、私は伝えようと思います。第一に伝えたいことは、生きていくということは、辛いこと、悲しいこと、苦しいこと、しんどいこと、たくさんあると思います。その結果、死んでしまいたいと思うことがあるかもしれません。でも、私もそう思ったら、周りの人に相談してほしいと思います。と伝え具体的なことを伝えます。

そしてもう一つ伝えたいことです。それは皆さんが、何気なく言ったりしたりしている行為が、誰かの心を傷つけて、それを『いじめ』と感じてしまう人がいるかもしれない。それを『いじめ』と感じてしまった人が、自ら命を絶ってしまえば、それは明らかな『いじめ』の加害者になってしまうんだということを知っておいてほしいと思います。

【兄を亡くした娘の想い】

この後、いじめに繋がる娘の話をさせてもらおうと思います。私の娘は、中学校の卒業式の日に兄の事件に遭いました。翌日、兄が亡くなり、翌日は県立高校の合格発表の日で、娘は行きたかった高校の受験に失敗しており、その翌日は私立高校の買い物で、妹に頼んで一緒に行ってもらい、妹と娘は混乱の中で私立高校の買い物をして帰ってきました。その翌日、兄のお葬式でした。お葬式が済んだ後、娘は地元で春休みを過ごしました。

犯罪被害に遭うということは、実は様々な問題や思いを抱えます。主司が亡くなった後、多くの人たちが心配をしたり、気遣いをしたりして、配慮をして、たくさん声掛けをしてくれたりしました。そういう声掛けの中に、こういうものがありました。「市原さん、辛かったね、悲しかったね、悔しかったね、大変だったね」そういう声掛けをたくさんもらいました。でも、そういう声掛けをしてもらうと、私の心が叫びました。「あなたが想像している辛さではない。悲しさではない。悔しさではない。大変さではない」と、言葉にはしませんでしたが、そういう風に心が叫んでいました。私は本を読んだりすることが好きですから、本や新聞を読んだり、テレビを見て、犯罪であれ、交通事故であれ、病気であれ、自殺であれ、その他どういう状況であれ、子どもを失うということはこういう風に辛いだろうと勝手に想像しておりました。でも、実際に犯罪被害で主司を失ってみると、その辛さ、悲しさは想像を絶するものがありました。そういう中で、そういう声掛けをしてもらうと、私の心が叫んでいました。声掛けには、「私だったら、僕だったら、子どもがこういう風に殺されていたら、狂っていたかもしれない」というのもありました。狂えるものなら狂いたいとどれ程思ったかしれません。でも狂うことはありませんでした。主司が亡くなった後、しなければいけないことが次々とありました。親の責任として、主司の後始末だけはしてやりたいという想いがありました。一番辛かったのは、死亡検案書を持ち、市役所に埋葬許可をもらいに行くことでした。実際に私が行ったわけではありませんでしたけれども、身内の者が行きました。それをするということは、親が戸籍から主司が生きていた事実を抹消し、消し去っていくということです。主司が亡くなった後、そういう主司が生きていた事実を、一つ一つ消していくような作業が本当にたくさんあり、がんばって、がんばってそういうことをしておりましたから、気が狂うことはありませんでした。でも、がんばってしていましたから「がんばって」と言われると「これ以上何をがんばれっていうの」とやっぱり心が叫びました。そういう声掛けや心配や配慮をしてくれている人たちの言葉を素直に受け入れられない自分を責める私もいました。だから、人と関わりたくなくなりました。私は比較的早く仕事に復帰をしました。そして、人と関わらないで済むように、県境を越えて、遠くの方に買い物に行くことを始めました。私は大人でしたから、そういうことができました。でも、娘は地元で春休みを過ごさざるを得ませんでした。

その状況で、春休みを終えた娘は、近くの新しい高校に通い始めました。そこで新しくできた友達に、15歳、16歳だった娘は、自分がそういう問題や思いを抱えているということを話せなかったんだと思います。だから、そういうことを隠して、誰にも言わないで学校に行きました。でもそういう問題や思いを抱えきれなくなり、反抗的な態度を取ったり、問題行動を取ったりすることが多くなりました。そうすると同級生達は、「あの子、変」と異端児として『いじめ』をするようになり、先生方からは問題児として扱われ、結局学校に行けなくなり、高校は中退をしました。

その後、娘は安心できる場所を見つけるのに、長い時間がかかりました。現在、娘は30代になり、数年前に結婚をし、翌年春に出産をし、子育てをしています。やっと小さな幸せの中で生きてくれるようになりましたけれども、そこに至るまでには、長い、長い時間がかかりました。子ども達にはこう言います。

皆さんに知ってほしいこと。皆さんの周りには犯罪被害者はいないかもしれません。でも、交通事故被害者も犯罪被害者です。だから言います。犯罪であれ、交通事故であれ、病気であれ、自殺であれ、その他どういう状況であれ、そういう大切な人を亡くしたり、失ったりしたお友達が、居るのではないかと思います。そういう大切な人を失ったお友達が、辛さ、悲しさを抱え切れなくて、もしかするとちょっとおかしな行動や問題行動をしているかもしれないということを知っておいてほしいと思います。娘のように辛い思い、悲しい思いをする子どもは、もういらないと思います。そういう子を『いじめ』の対象にしないであげてほしいと思います。

【最後に伝えたいこと】

最後に、あと二つ知っておいてほしいことをお伝えして、この話を終わろうと思います。その一つ目は、被害者になるということは避けられないことだけれども、加害者になるということは避けられるのではないかということです。毎日、たくさんの事件や事故のニュースが、テレビや新聞で報道されていると思います。その中で、私が特に気になるのは、通り魔が通行している人に襲いかかり亡くなった人やケガをした人がいるというニュースを聞いたときだったり、最近は高齢者の事故のことが複数報道されていますけれども、今年も子ども達の列に車が突っ込んだという報道が、岐阜県や兵庫県加古川市などでありました。そういう風に、無免許で居眠り運転をしたり、そういった車が通学している子ども達の列に突っ込んだり、お酒を飲んで運転し事故を起こした。脱法ハーブなど違法な薬物を摂取し事故を起こした。そうして、そういうことをした結果、多数の死傷者が出たというようなニュースを聞いたとき、でも、今話をした事件事故の被害に遭ったほとんどの人たちは、加害者とは会ったことがなく、自分がそういう被害に遭うとは思わないまま、偶然そこにいたり、その場所を通行していただけだと思います。私も交通事故に遭うとは思わなくて、駅から家まで歩いて帰っていて事故に遭いました。だから、そういう風に偶然そこを通りかかったり、その場所にいて被害に遭ってしまうということは、残念だけどあります。だから、被害者になってしまうということは、あってはいけないけれども、あるかもしれません。でも先程話をした交通事故の場合、無免許で車を運転する、お酒を飲んで運転する、信号無視で運転する、脱法ハーブなどの違法薬物を使用して運転する、絶対にしてはいけないことです。仕事などで疲れていたら、運転を誰かに代わってもらうとか、仮眠をとってから運転するとかできたはずです。だから、事故を起こした加害者の人たちは、自分が気をつけていれば、事故は起こさなかったはずです。加害者が居なければ、被害者はいない、生まれてこないんです。

そして、最後に伝えたいこと。生きていることは辛いこと、悲しいこと、苦しいこと、しんどいこと、たくさんあると思います。でも、私は生きてさえいれば、少し先には、良いこと、嬉しいこと、楽しいことなどあると思います。私は圭司が亡くなった後、どれほど圭司のところに行ってやりたいと思ったかしれません。でも、それもできないまま17年余り生きてきました。あれほど辛く、悲しかったのに、17年余り生きてきた中で、やっぱり良いこと、嬉しいこと、楽しいこと、ありました。今日私が皆さんにお会いできたこと、それは私にとっては嬉しいことです。と、子ども達に伝えます。だから、そう生きてさえいれば、必ず良いこと、嬉しいこと、楽しいことがあると思います。だから、今がどんなに辛く、悲しく、苦しく、しんどくても、皆さんは皆さんに与えられた命、寿命を、おじいちゃんやおばあちゃんになるまで、圭司のように途中で命を落とすことなく、皆さんの命、寿命を生きて、生きて、生き抜いてほしいと思います。

実は、一昨年度まではここで話は終わっていたんですけれども、昨年度からこの話の後に追加で、最近起こっている子どもたちを取り巻くニュースの話をし、私は、圭司が集団暴行で亡くなった後、圭司のような想いをする子は二度といらないと思い、子ども達のところで命を語りに行かせてほしいと思いました。2006年から多くの人の協力で、色々なところでお話をさせていただく機会をもらうようになりました。でも、私がどんなにがんばっても全国全ての学校に行くことはできません。だから今日、私が皆さんにお会いできたこと、話ができたことは、私にとって奇跡だと思っています。だから皆さんにお願いです。今日話を聞いてくれた皆さんだけでいい、皆さんは被害者にも加害者にもなることなく、皆さんに与えられた命、寿命を、生きて、生きて、生き抜いてほしいと思います。そういう元気に生きている皆さんと、またどこかで出会うことがあったらいいなと思いますと伝え、話を終わることにしています。

これが、私が子ども達向けにお話をしている『命の授業』です。

私は講演を聴いてもらった後に、必ず子ども達に感想を書いてもらうことにしています。そしてその感想はできるだけ送ってもらって、読むようにしています。でも、現在はものすごい量の感想が届きますので全部読むことができなくなっていますが、でも感想には「市原さんの講演を聞くまで私は死にたいと思っていました」という感想があり、その後には「市原さんの講演を聞いて、手を合わせてみて、始めて私は温かいと思い、生きていることを感じました。そうしたら死にたいと思っていたことが、バカバカしくなりました」という子もいます。また、「いじめに遭っていた、現在も遭っている」と書いている子もいます。そういう風に色々なことを書いてきてくれる子どもたちがいます。また県外のある中学校の3年生の人権教育に行ったとき、私の講演を聞いてくれた後に感想と謝辞を述べてくれた女生徒が、前後は省略するんですけれども、「私達は人権学習で様々な人権についてたくさん学んできました。

今日、私は市原さんの話を聴いて、この人権の根底の全てには"命"があると思いました。だから私達は、その命が奪われたり、失くしたりしないように、人権についてこれからもきちんと学んでいかないといけないと思いました」という感想を述べてくれた子もいます。そういう風に子ども達は、本当に色んなことを書いてくれ述べてくれます。

私は岡山県では、講演の後に生徒会の役員だったりするんですけれども、そういう少人数の子どもたちと話をする機会をもらっています。そういう中でも「実は…」ってお聴きすることがたくさんあります。

その「実は」なんですけれども、子どもたちに講演する前後に、学校の先生方や講演を主催してくださる方ですとか、送迎を担当してくださる支援センターや県警の方々との車中とかでお話をするのですけれども、その時にそういう方々からも「実は…」と語ってくれることがものすごく何年か前からか増えました。その多くは、それぞれの方々が抱えている「グリーフ」で、「グリーフ」というのは抱えきれない喪失のことなんですけれど、喪失は死別だけではありません。「実は…」と語ってくれることが多くなり大人の方々からもすごく「実は…」って話を聞きます。

ある高校で3年生150名を対象とした講演をした時、講演後に男子生徒が述べてくれたことです。その男子生徒のお姉さんは、小学校高学年から高校を中退するまでずっといじめに遭っていたそうで、親御さんを含めて色々と対応されたみたいですけれども、いじめは収まらず、高校を中退するまで続いたそうです。そして、結果としてお姉さんは障害者の認定を受けて、障害者の作業所に働きに行っている状況にあると。だからその男の子は、いじめを無くしたいと思っているけれど、どうしていいか分からなかった。でも、自分が思っていることを市原さんが語ってくれましたと感想を述べてくれました。その後、校長室に来られて「僕は、いじめをなくすために何かをしたいと思っていました。でも何をしたらいいのかわかりませんでした。市原さんのお話をお聞きして、僕が話したいと思っていること、感じていることなんかを全部言葉にして語ってくれました。ありがとうございました」と言われました。そういうふうに「実は…」とお聴きすることが多くなっています。

私は最近感じます。この日本社会の中で、そういうふうに「実は…」と話ができない子がすごく多いと思います。私は、「実は…」とお話をお聴きしても、その方に何かをしてあげることはできません。私ができるのは、その方の話を「うん、うん」と、時々次の話を引き出せるように相槌を打ちながら聞くことだけです。私は聴くことしかできないし、その後は帰ってしまうんですけど、お話ししてくださる方が私に語ることによって、自分の心の中や、気持ちの中にあるものを整理して、次に向かって歩くことに繋がっているではないかなと思います。多くの方が語ってくれた後、私はそういうことを感じます。そしてそれは、被害者支援につながることなのではないかなと思います。

本当に今日は、長い時間に亘ってお話を聞いていただいて、ありがとうございました。

★～Lefa～チャリティコンサート★

第2部として、滋賀県を拠点に音楽活動をされております～Lefa～にご出演いただき、「君の笑顔見たいから」「君に咲く花」「イノチツナイデ」「虹、あかね色の空に」等、素敵な歌声と演奏を披露していただきました。会場内が一つになり、温かい雰囲気に包まれ、素晴らしいコンサートとなりました。

～Lefa～のお二人にも心より感謝申し上げます。

「犯罪被害者週間」活動報告

毎年、11/25～12/1の「犯罪被害者週間」期間中に広報啓発活動を実施し、犯罪被害者支援へのご理解とご協力をお願いしておりますが、今年度も多くの方々にご協力をいただき実施することができました。

10/29,30ふじのくに交通安全県民フェア会場にて

11/16県警音楽隊ロビーコンサート会場にて

11/26犯罪被害者等支援講演会会場における募金活動

街頭キャンペーン活動（11/22静岡駅、11/29沼津駅、11/30浜松駅）

静岡駅地下道・浜松駅地下柱における広報

昨今、電車・バスにおける車内広告や車内放送、更にタクシーにおける広報ステッカー貼付を実施しているところですが、11月から新たな取り組みとして、静岡県内で最も多くの方が利用する静岡駅と浜松駅の地下道の掲示場所に大型の広報用ポスターを一年間掲出します。

色々な場所において広報を展開することで、犯罪被害者だけではなく、県民の皆様に「静岡犯罪被害者支援センター」の存在を知っていただき、『犯罪被害者支援』を身近に感じていただければと思います。

静岡駅地下道
（松坂屋出入口付近）

浜松駅ターミナル地下柱（エレベーター付近）

「事例検討会議」開催

日本財団預保納付金助成事業の一環として、『事例検討会議』を開催いたしました。

開催にあたり、静岡県弁護士会犯罪被害者支援対策委員会のご協力をいただき、支援弁護士を始め、警察、精神科医、産婦人科医、臨床心理士の方々にもご参加いただきました。

当日は、当センター副理事長兼センター長でもあります白井孝一弁護士の進行のもと、支援を担当した弁護士と望月一代支援室長からそれぞれ報告がされ、被害者の相談に対して一機関で抱え込まず、関係する機関と連携し、サポートしていくことの大切さを強く感じることができました。

次回は2月に予定しておりますが、今後も多様化する支援に柔軟に対応できるよう支援方法を学ぶことはもちろんですが、様々な機関の方々にご参加いただくことで、支援する側もお互いを知る機会となり、信頼関係の構築にも繋がることから、定期的に事例検討会議を開催していきたいと思います。

～ドリンク1本・不要になった本で、社会貢献!!～

寄付型自動販売機&ホンデリング寄付報告（平成28年1月～12月）

『寄付型自動販売機』

サントリービバレッジ：20台　168,873円

矢崎エナジーシステム㈱静岡支店、光サービス、かの川商店、オオイカメラ、中部運転免許センター2台、サントリービバレッジ（浜松支店、三島支店）、㈲高野コミュニティー（高野マンション、高野コーポ）、㈱静岡新聞社、溝口病院、赤阪鐵工所（豊田工場2台　※9月から1台追加、センタービル、中港工場、㈱クサナギ）、SBSマイホームセンター袋井展示場、㈲三田製作所、やまふじ（2月まで）

東海ビバレッジサービス（旧・米久ベンディング）：2台　21,059円

JA富士市ホワイトパレス、SBSマイホームセンター藤枝展示場

ダイドードリンコ：8台　269,409円

古庄自動車学校、静岡県交通安全協会、㈱橋本組、岩水寺、芙蓉ビル、藤野建設㈱滝沢現場、小林建設㈱御殿場営業所、県営住宅やよい団地F棟建設工事現場（6月まで）

コカ・コーラ：2台　3,210円

加藤鉄筋工業㈱（9月～）、藤野建設㈱工事現場（12月～）
※29年2月から藤枝市岡部町「蕎麦庵まえ田」に設置。

信濃商事：1台　2,846円

SBSマイホームセンター静岡東展示場

全国被害者支援ネットワーク：2台　5,542円

オムロンフィールドエンジニアリング、オムロン㈱三島事業所

『ホンデリング』

寄付件数:69件　325,888円

静岡県警察職員の皆様を始めとして、多くの方にご協力いただいた結果、平成27年を上回る寄付金額となりました。心より感謝申し上げます。

～まだ利用したことがない皆様へ～

これから卒業や入学、異動や退職、引っ越し等で、本やDVD等を整理する機会が増えるかと思います。

古本等の査定を担当する㈱バリューブックスでは、古本5冊以上あれば送料無料で集荷しています。また、対象となる本は、下記のISBNコードが記載されている本に限ります。

申し込み方法等のお問合せは当支援センターへ（℡.054-651-1021）ご連絡ください。ぜひ、この機会に『ホンデリング』をご利用ください。

9 784 1234 567899

ISBN978-4-1234-5678-9
ISBN見本

支援センターの運営を支えてくださる皆様

～こころより感謝申し上げます～

平成28年7月1日～平成29年1月31日

アイウエオ順

(一社)熱海市観光協会	熱海商工会議所	㈱アンドーカーパーツ	井伊　孝文
㈱石井組	石創　誠	磯部　三恵	伊藤園産業㈱
㈱伊藤園	伊東警察署	伊東地区安全運転管理協会	稲之原　勝美
入江地区青少年育成推進委員会	岩崎　明司	磐田遊技業組合	内山　隆司
海野　研司	大多和　清美	大庭　茂利	大仁警察署
小笠運送㈱	小國神社　玉次会	長富士工業技術協同組合	掛川警察署
掛川商工会議所	掛川地区安全運転管理協会	上川　陽子	医療法人社団倫芳会　河井医院
河越　大郎	川嶋　晃	㈱川島組	川島　達也
汗管義業㈱	菊川地区安全運転管理協会	菊池　美明	木宮　明恵
合資会社 栗下運送店	栗田　友莉	㈱クレヨンハウス	幸谷　和征
コーニングジャパン㈱	湖西警察署	興水　誠司	後藤　千代子
小林建設㈱	佐野　愛子	澤木　久雄	静岡ガス㈱
静岡県警察カレンダー製作委員会	静岡県警察官友の会	静岡県警察官友の会大仁支部	静岡県警察官友の会湖西支部
静岡県警察官友の会静岡南支部	静岡県警察官友の会牧之原支部	静岡県警察官友の会三島支部	静岡県警察警備部外事課機会
静岡県警察交通OB会	(一財)静岡県警察職員互助会	静岡県警察本部絆プロジェクト	静岡県警察本部教養課有志
静岡県警察本部警察相談課	静岡県警察本部刑事任用科	静岡県警察本部刑事任用科第24期生一同	静岡県警察本部警備部機動隊
静岡県警察本部刑事部組織犯罪対策課	静岡県警察本部通信指令課	静岡県公営競技連絡協議会	静岡県交通安全協会菊川地区支部
静岡県交通安全協会浜松東地区支部	静岡県質屋組合連合会	静岡県自転車軽自動車商業協同組合	静岡県農協暴力防犯対策協議会
静岡市自治会連合会	静岡市清水区自治会連合会	静岡市遊技業組合	静岡中央警察署
静岡中央警友会	静岡鉄道㈱	静岡ジョペット㈱&パートナー会社	静岡不動産㈱
静岡南警察署	静岡南警友会	静岡リビング新聞社	島田警察署
島田商工会議所	清水警察署	下田地区安全運転管理協会	スズキ㈱
鈴木　寛一郎	鈴木　欽弘	鈴木　智子	鈴木　雅士
鈴木　通代	鈴与㈱	裾野警察署	裾野ライオンズクラブ
セキスイハイム東海㈱	曽我　一洋	第79期長期課程第一学級	高田　好浩
高橋　宣之	たちばな会	田中　広子	中部電力㈱静岡支店
㈱天文本店	内藤　光雄	南條　晶子	仁科　喜世志
沼津警察署	沼津商工会議所	沼津競東遊技場組合	㈱橋本㈱
浜北警察署	浜北警察署管内職域防犯協会	早川　雪子	原木　英三
伴　信彦	POB環境整備連絡協議会	平塚　哲也	藤枝警察署
藤枝警友会	藤枝遊技業組合	富士岳南ライオンズクラブ	富士警察署
富士心身リハビリテーション研究所	富士宮中央ライオンズクラブ	富士宮芙蓉ライオンズクラブ	富士宮ライオンズクラブ
藤本　順一	平成28年度ヤングリーダー研修会参加者一同	星野　健兒	細江警察署
堀田　一義	前林　孝一良	牧之原警察署	牧之原警友会
㈱マキヤ	松澤　紘一郎	松本　喜代子	松谷　清
㈱丸川	丸山　博之	三島市自治会連合会	宮伏　由美子
望月　俊彦	望月　成男	焼津警察署	焼津市遊技業組合
山下　栄	山中　一成	山本　正子	若澤　和夫
犯罪被害者等支援講演会　募金	ふじのくに交通安全県民フェア募金	匿名20件	

《賛助会員・寄付のお願い》

静岡犯罪被害者支援センターの活動は、皆様の寄付金等で支えられています。
当支援センターの主な活動として、電話相談、直接的支援、支援員の養成・研修、広報啓発活動等を行っています。
被害者支援活動の趣旨にご賛同いただき、ご支援ご協力をお願いいたします。

賛助会費

法人・団体	1口	10,000円以上
個人	1口	2,000円以上

賛助会員の方々には、広報誌「支援センターだより」などをお送りしています。
また、被害者支援講演会等のイベントを開催する際には事前にお知らせいたします。

【振込口座】　郵便振替:口座番号　00870-7-50944
【加入者名】　NPO法人静岡犯罪被害者支援センター

ホームページアドレス
http://www.shizuoka-hhsc.jp

後援　静岡県警察本部
静岡県犯罪被害者支援連絡協議会

発　行　認定NPO法人
静岡犯罪被害者支援センター
〒420-0032
静岡市葵区両替町1-4-15 芙蓉ビル4階
発 行 月　平成29年 3月